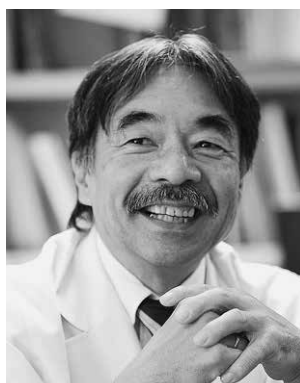


## ■ 理事長ご挨拶

松本 秀男

慶應義塾大学スポーツ医学総合センター



2017年11月の理事会で自ら立候補し、理事長として2期目を続投のご許可を頂きました。「あいつが!?!」と思われる方もおられるかも知れませんが、日本整形外科学会(JOSSM)に対する私なりの思い入れもあり、もう少し

お付き合いください。

さて、他の社会と同様にスポーツ医学会でも、課題が一つ解決しては、また新たな課題が生まれます。現在の課題は、専門医制度改革に対する対応、スポーツ医学会相互の連携、海外のスポーツ医学会との関わり、そしてスポーツ医学の教育体制です。

まず、専門医制度改革については、専門医機構の方針決定に紆余曲折があり、基本19領域の認定がようやく始まったところです。「スポーツ医学専門医」については現状では基本19領域の専門医取得後の2階建ての部分になりそうです。我々としては、他のスポーツ医学会等とも連携して対応していく必要があるのですが、今のところ「スポーツ医学専門医」を作るかどうかも含めて、専門医機構の方針が定まっておらず、動きようがないのが現状です。但し、だからと静観していると、いざ動きがあった時に後手に回るので、常にアンテナを張っておくことにします。

日本整形外科学会(JOA)、日本臨床スポーツ医学会(JSCSM)、JOSKASなど、他のスポーツ医学会の連携は極めて順調です。まず、JOAのスポーツ医学委員会はJOSSMを愛してくださっている高岸先生が担当理事、帖佐先生が委員長をこれまで務めて頂いて来ましたし、今度は稲垣先生が担当理事になられましたので、とても心強い限りです。今後もし是非いろいろな面で協力していきたいと思っています。JSCSMは私自身も深く関与しておりますので、これまで同様の住み分けと協力体制を維持していけると確信しております。さてJOSKASとは

2020年に石橋先生がJOSSMとJOSKAS双方の学術集會会長に選出され、合同開催を行うことになりました。これまで、両方の学会で毎年同じようなシンポジウム、同じような教育講演が同じような人材で生まれ、「重複」が多々に見られましたが、これらを一つにまとめられる大きなメリットがあります。スポーツ医学を学ぼうとする若い先生方も、この合同の学術集會に来れば、必要十分な勉強ができる様になると思います。但し、JOSSMとJOSKASの組織を統一するのではなく、あくまでも学術集會を「合同」で開催することが趣旨です。「スポーツ医学」というidentityは今後とも継続していきたいと考えています。2021年のJOSSM学術集會会長は稲垣先生に決定しており、JOSKASの出家会長との合同開催を計画中です。その後「スポーツ医学会」がどのような方向に進むかについては、これらの「合同」学術集會を行いながら、今後スポーツ医学を支えていく若い先生方を中心に、みんなで考えていく必要があると考えています。

海外のスポーツ医学会との関わりについても前任の高岸理事長や国際委員会の別府先生に道を作って頂いたおかげで、順調に発展しています。GOTSに対しては、これまでtravelling fellowを事務的に交換することが主な交流でしたが、ここ数年、会長の相互訪問や教育講演など、だんだん血の通った交流になりつつあります。AOSSMに対しては、JOSSMからtravelling fellowを派遣していますが、毎年7月のAOSSM学術集會の時にAOSSM-JOSSM leadership meetingを行い、今後の協力体制についてdiscussionしております。それにしても、このAOSSM-JOSSMの協力体制に多大なご尽力を頂いたAllen Anderson先生が昨年急逝されたとの由、突然の悲報にただ驚く他ありません。ご冥福をお祈り申し上げたいと思います。KOSSMとは、良好な関係が定着しました。毎年交互にKOSSM-JOSSM combined meetingを開いており、昨年は9月の末にSeoulで開催されました。日本からも多くの発表があり、2会場を使っての会議でした。今年は西良先生にJOSSMの学術集會の時に徳島で開いて頂きます。韓国もいろいろな新しい技術を開発したり、取り入れたり

おり、日本にはない特徴もありますので、是非皆様の積極的な参加をお待ちしています。更に、JOSSMはAOSSMの official journalであるOJSMやGOTSの official journalであるSOT journalの「official partner」になりました。JOSSMに投稿のあった論文の内、優秀なものについては編集委員会前担当理事の柴田先生、前委員長の阿部先生を中心に、学会から援助を行って、これらの journal への投稿を補助する仕組みを作って頂きました。是非ご活用下さい。

スポーツ医学の教育体制の問題は最初に述べた専門医との関係もあり、早急に整備すべき課題です。他のスポーツ医学施設を見てみたい、実際の手術を見学してみたい、しばらくの間国内留学をしてみたい、スポーツ医学の研究をしてみたい等、これからスポーツ医学を学ぶ人たちも様々な希望があります。それぞれの大学や施設にすべての領域をカバーできるスポーツ専門医がいるはずもなく、スポーツ医学の幅広い領域を単一の施設で学ぶのは不可能です。幸い JOSSM にはスポーツ医学

の様々な領域の指導者がいますので、これを活用すれば、それぞれの場所で広い範囲の知識や技術を学ぶことが可能です。教育研修委員会担当理事の加藤先生を中心に、一昨年、昨年とスポーツ医学の教育を受けたい人、教育ができる施設等についてのアンケート調査を行って頂きました。その結果、これが実現可能であることがわかってきました。近日中にスポーツ医学の様々な教育ができる施設が JOSSM のホームページに掲示板に掲載される予定です。意欲のある若い先生方は、是非この掲示板を活用していただき、出身大学や病院の小さな枠を飛び越えて、全国の専門的な、そして最新のスポーツ医学を学ぶ機会を得ていただきたいと思いません。

2020 年を控えて、これからスポーツ医学はやるべきことがますます増えていきます。2020 年を最高のきっかけと捉え、あと 2 年間スポーツ医学会全体の体制を整えていきたいと思えます。ご協力よろしくお願ひ致します。